

以前「サカハチチョウ」という、羽に白色の逆さまの「八(ハチ)」の字模様のある種を紹介しました。

全翅長 2 cm前後の小さなタテハチョウで、低山地から山地の林縁の草地で見ることの多い種です。

この春、南河内の山でも、林道や溪流、ハイキング道沿いなどで結構たくさんの個体が飛んでいました。

そして盛夏を迎えたこの時期、やはりこの「サカハチチョウ」が同じ場所で飛んでいました、...が...

少し様子が違うのです！

羽を閉じているときはさして違和感を感じられないのですが、羽を広げると...

あの鮮やかなオレンジ色の部分がほとんど見られなくなって、全体的に黒っぽくなったことで、白い“逆さまの八の字”がやたら目立つようになったのです...

果たして同じ種類のチョウだろうか？ と迷ってしまうくらいです。

このように、季節によって形態的な変化が現れる現象を「季節型」と呼んでいます。中でも「サカハチチョウ」は、季節型の顕著な例なのだそうです。

具体的には、4月下旬頃に羽化した「春型」成虫が5月頃に産卵、孵化・幼虫・蛹を経て7月中頃から「夏型」の成虫が羽化し始めます。

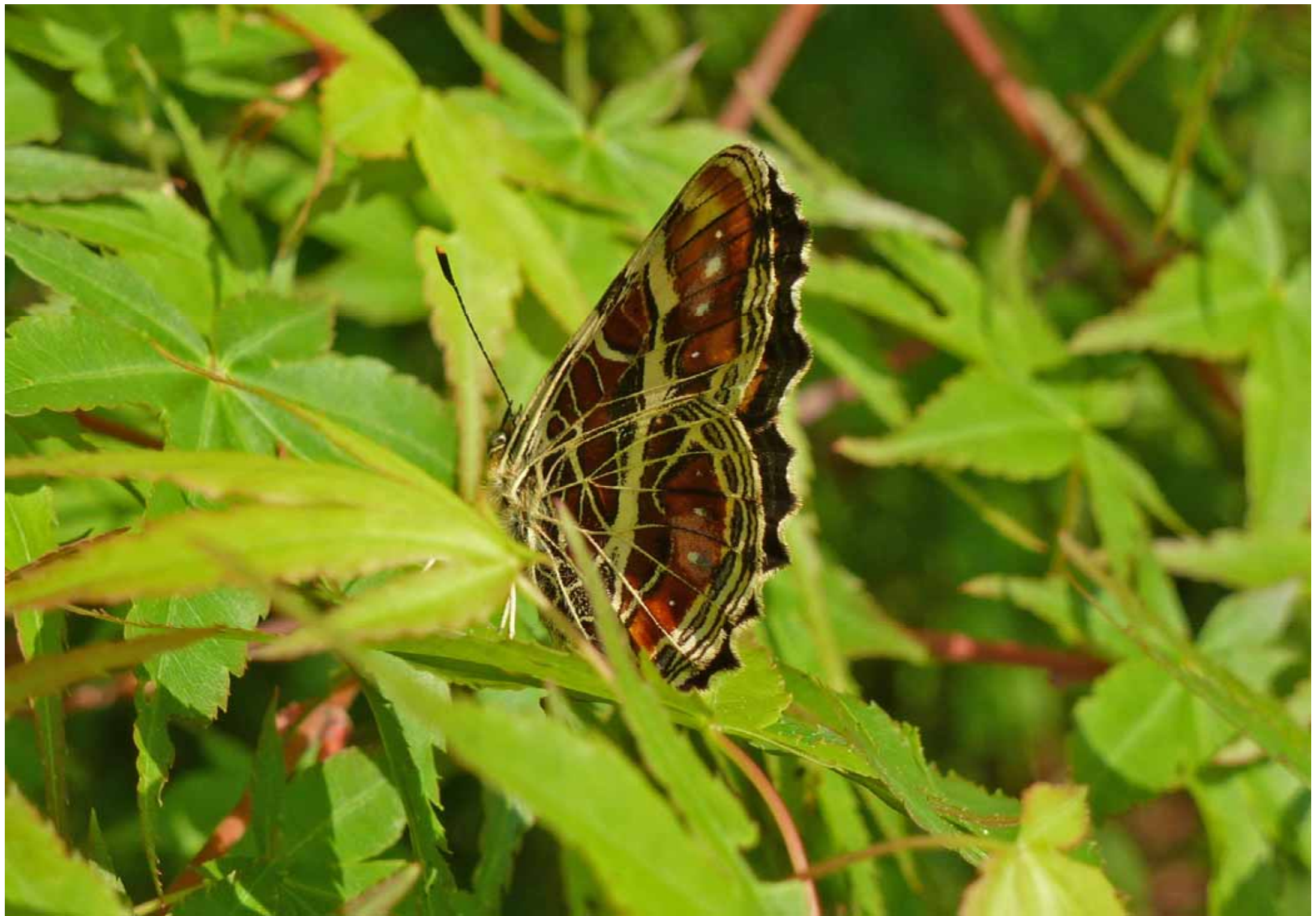
「夏型」成虫は8月に産卵、孵化・幼虫を経て蛹で越冬して4月下旬頃に「春型」として羽化...

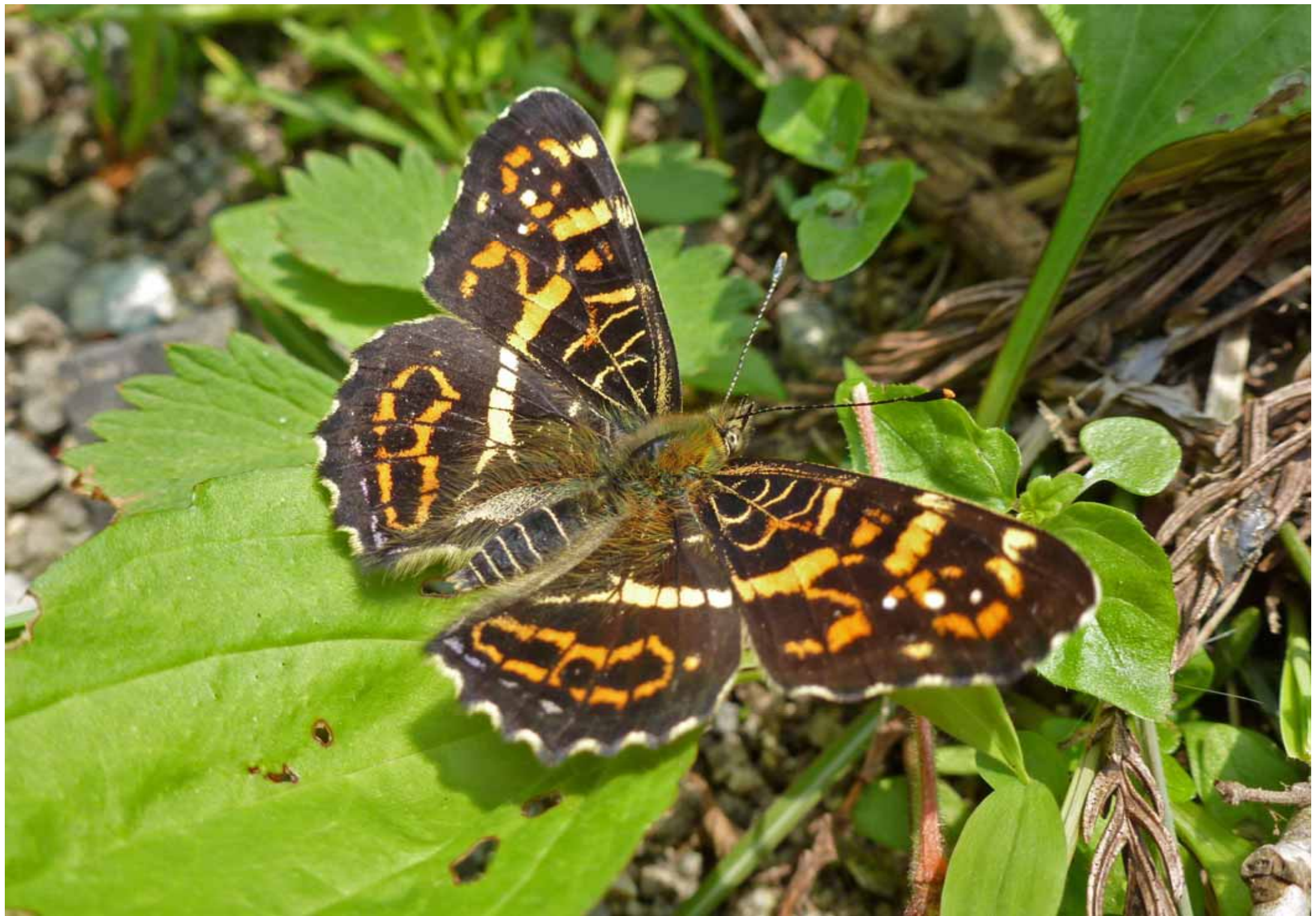
このサイクルが繰り返されるのです。

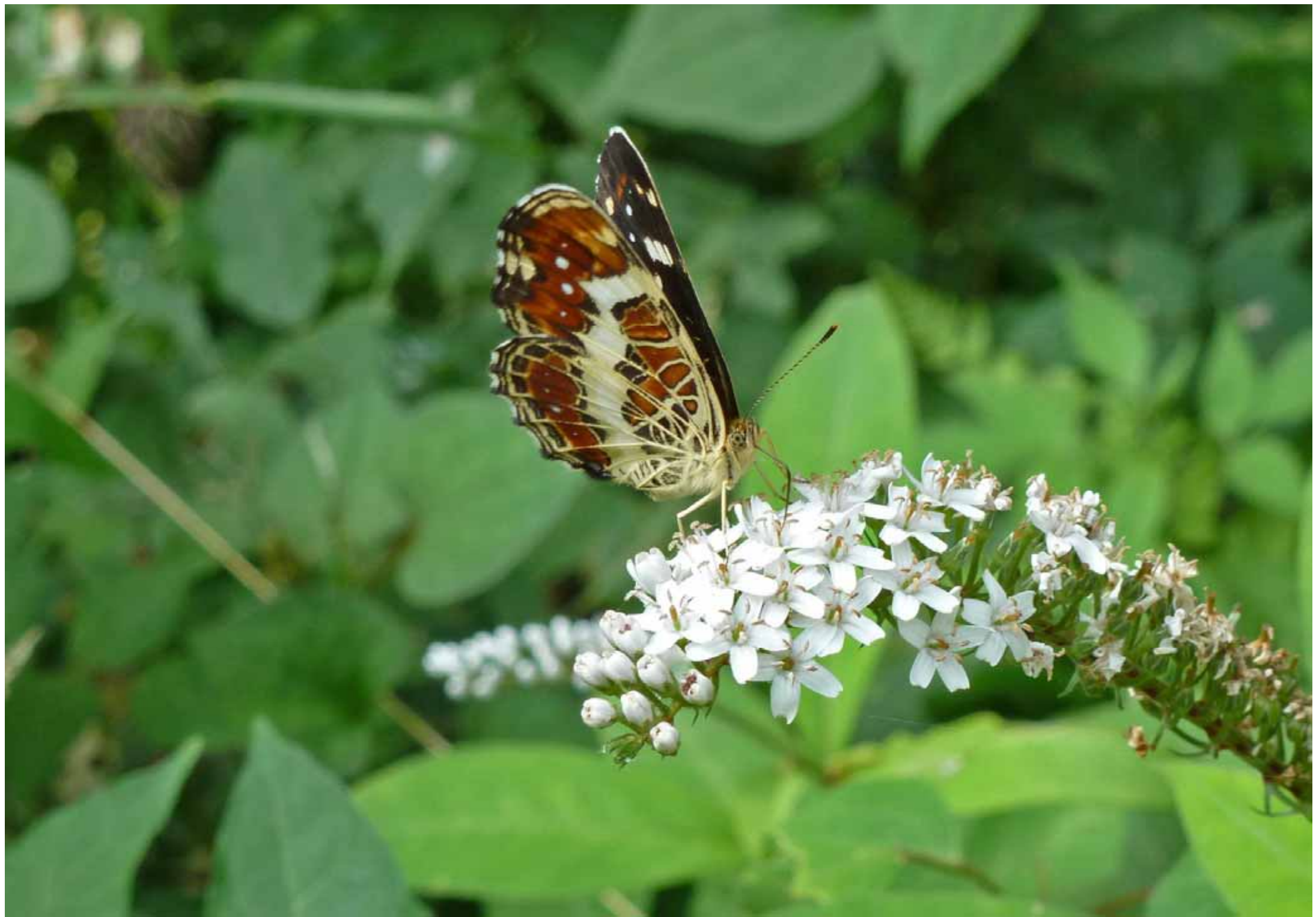
一方、「ベニシジミ」は、「春型」は鮮やかなオレンジ色の部分が多いのに比べて、「夏型」の中には全体的に黒っぽい色の個体が多く見られるようになります。

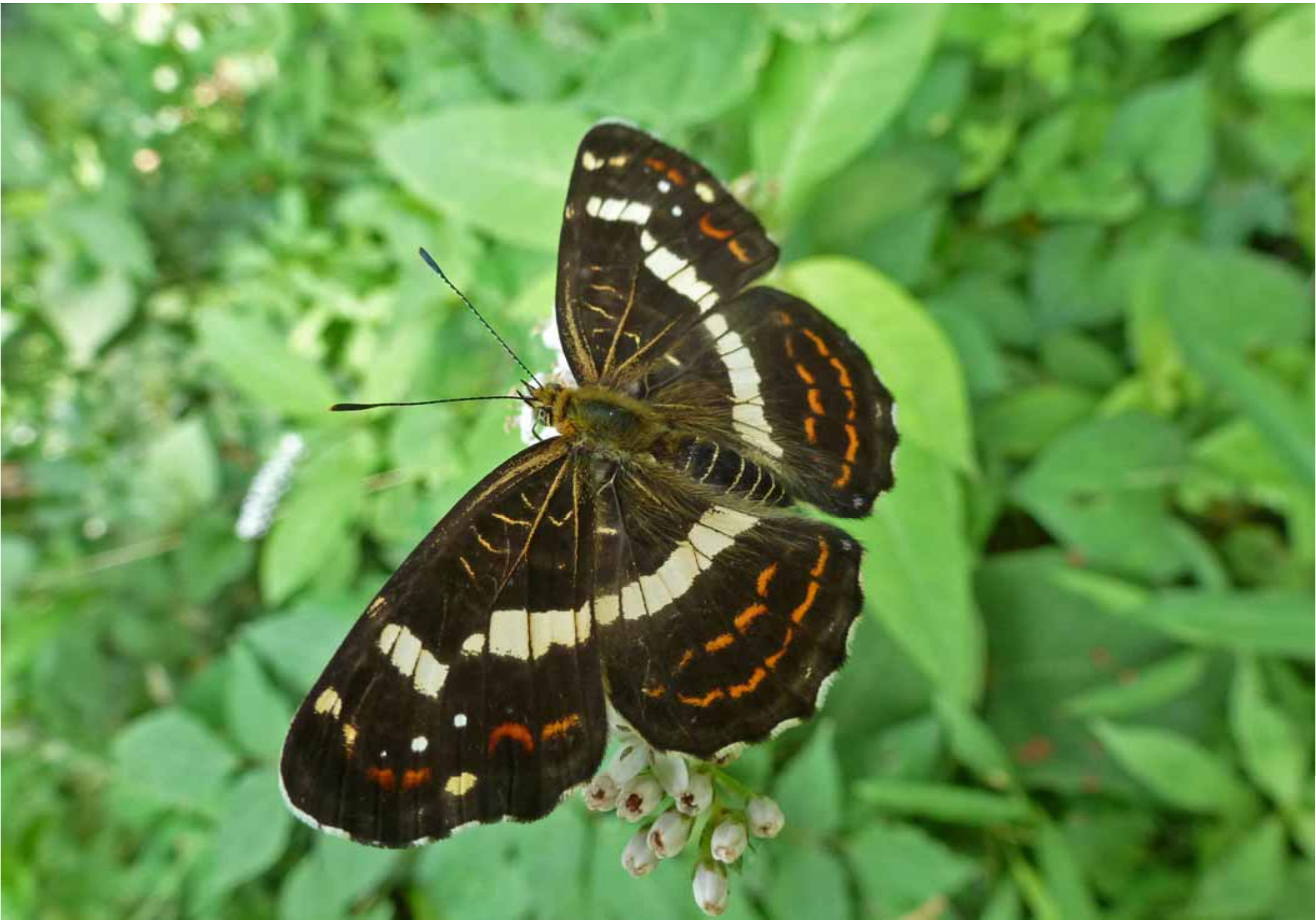
「季節型」の変異は、このように翅色の変化だけではなく、種によっては大きさや翅の形状などにも現れるようです。

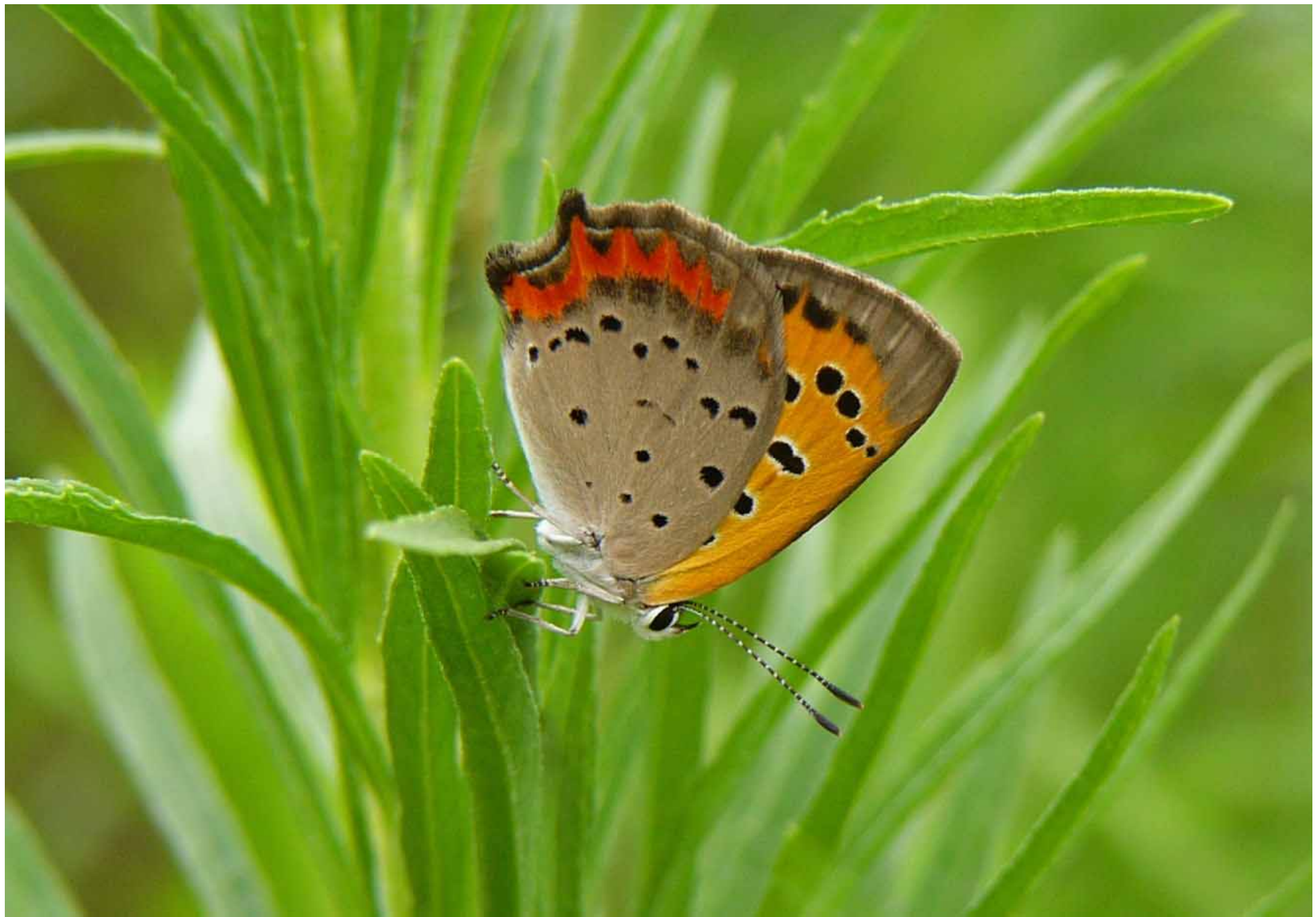
- 写真 ・ : 春型の「サカハチチョウ」
- 写真 ・ : 夏型の「サカハチチョウ」
- 写真 : 「ベニシジミ」
- 写真 : 春型の「ベニシジミ」
- 写真 : 夏型の「ベニシジミ」
- 写真 : 春型と夏型の比較(サカハチチョウ)
- 写真 : 春型と夏型の比較(ベニシジミ)



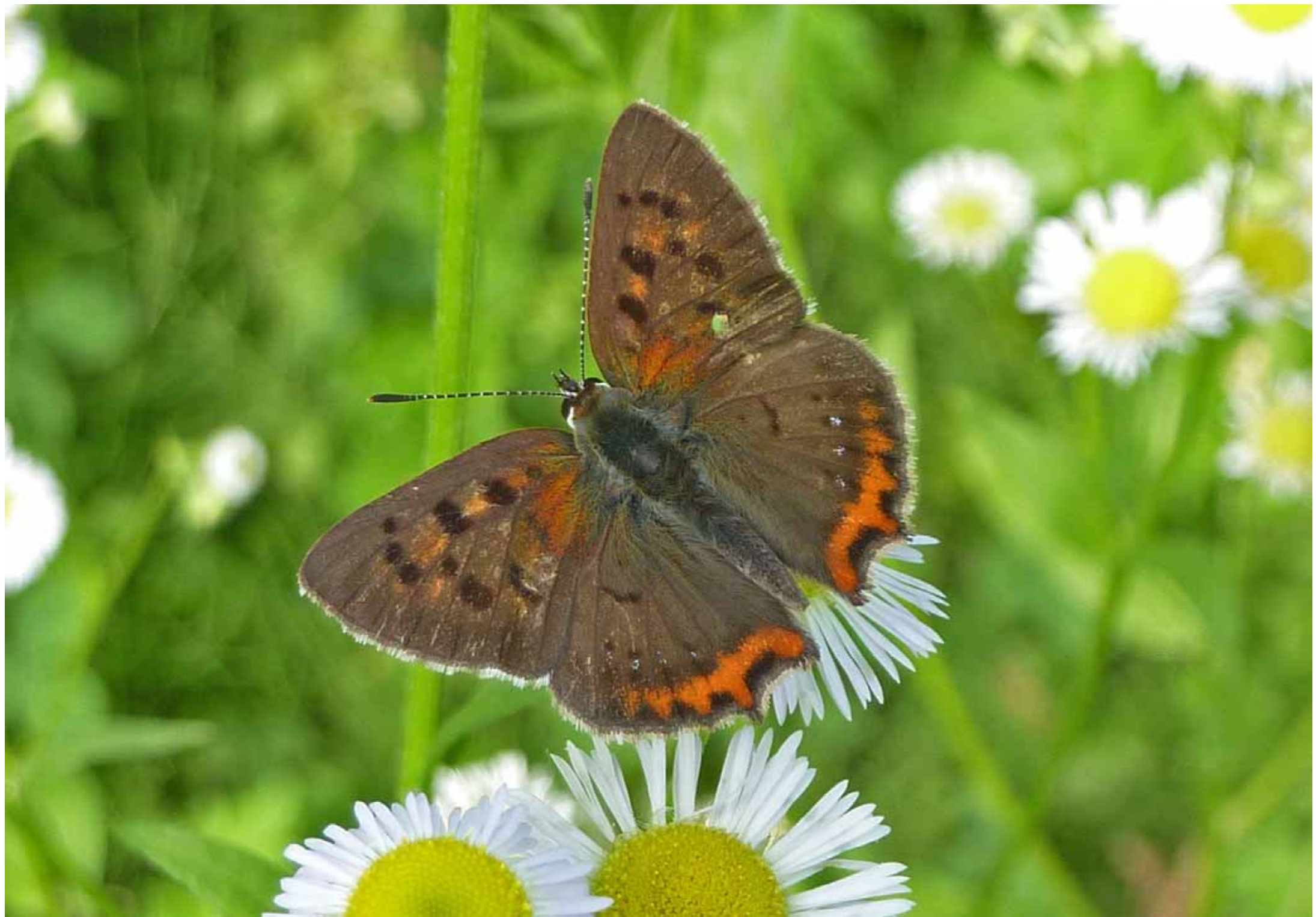














サカハチチョウ 《上：春型、下：夏型》



ベニシジミ 《上：春型、下：夏型》

